

# ハイエクの社会理論

自主的秩序論の構造

本書は、ハイエクの認知科学での研究と自由主義論を基礎づけた自主的秩序論を取り扱ったものである。ハイエクが没して17年が過ぎたが、その間にもっとも研究が進んだのが、このハイエクの認知科学の研究である。

ハイエクは、「社会における知識の利用」などの一連の論文の中で、社会にお

ける知識の意味を論じ、それを社会主義を始めとする市場干渉主義批判の基礎として用いてきた。だが、ハ

イクに対する批判者は、彼の知識論がそれほど深いものではないこと、特に分析哲学の観点から皮相的に過ぎないことを反論の根拠

## 社会理論を冷静に分析する

ハイエクの知識論のルーツと本質を明らかに

江頭 進

が出発点としたのはより現代的な認知科学なのである。本書で直接示唆されたハイエクが学生時代に書いた『感覚秩序』の草稿とため『感覚秩序』の草稿と

なるとは、おそろしくフーバー研究所に所蔵されている「意識の発達理論への論考」(1920年)と「精神の本質」(日付無)の二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプト

の二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプト

の二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプト

の二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプト

の二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプトの二本のタイプスクリプト

### ハイエクの社会理論

自主的秩序論の構造

森田雅憲

ハイエクの社会理論から自由主義政治思想を切り出し、知識論・行動論・経済論をコアにした、説明的理論として社会理論を再構成。制度の理論的分析に新しい方法を切り拓く。

日本経済評論社 定価 本体4800円＋税

A5判・334頁・5040円  
日本経済評論社  
978-4-8188-2068-5

を回想してはいるが、哲学

★もりた・まさのり氏は同志社大学教授・経済学専攻。神戸大学大学院博士後期課程単位取得退学。著書に「入門経済学」「マクロ経済学」など。一九五〇(昭和25)年生。